



# 祐介の目

大田ゆうすけ No.73  
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

てバブル末期に調子に乗って失敗した体験を包み隠さず話され、倒産寸前のどん底を経験する中で親兄弟の支援により再起し、商品をくりむパン一品に絞り業績をV字回復させるくんだり、は誰もが惹き付けられた。

## トップマネジメント セミナー

私が所属する商工会議所・青年部はトップマネジメントセミナーと題して毎年「これは」と言う講師をお呼びして講演会を開催している。今年の講師は青年部・研修委員会の委員長として私が選んだが、くりむパンで有名な三原の(株)天堂・森光孝雅社長に白羽の矢を立てた。

森光社長とのご縁は、私の会社(株)福山健康舎と八天堂が共にトライスリートの福元哲郎選手を支援しており、その福元選手の仲介により今回のセミナーが実現した。森光社長は実に腰の低い紳士であり、心から尊敬できる方とご縁を頂いたと嬉しく感じた。

さて、9月12日に開催されたセミナーは「事を成すには逆境にあり、事を破るは順境にあり」と題し、波乱万丈の森光社長の半生を赤裸々に語っていただいた。特に3代目社長とし

親兄弟が力を合わせる事こそ中小企業発展の秘訣であることは歴史が証明していると断言され、参加者アンケートでも9割の方が「とても良い」セミナーと評価された。

多くの企業が新商品開発に向けて日夜努力していると思うが、くりむパン開発の過程はまさにイノベーションの一種であり、どんな業種にも応用できる考えだった。すなわちスタンダードとスタンダードを掛け合わせる事によりイノベーションが起った、八天堂オリジナルのくりむパンが誕生したぞうだ。話せば簡単なようだが、開発までに約2年間を要したという。そのくりむパンで東京進出、全国展開、そして海外進出も果たされた。

9月には森光社長の著書「人生・今日が始まり」がロフトより上梓された。この本は備後の経営者の必読書と言って良いと思う。特に親子で経営方針が合わない、イノベーションのヒントを見つきたいとお悩みの方にお勧めしたい。